

医師・看護師が不足している

司会 危機感というお話がありましたが、仲田さんはこの点についてどのように思われますか。

仲田 高梁地域では、看護師の一番多い世代が50代から60代となっており、若い世代の看護師が増えなければ人手不足により病院が消えてしまうという危機に直面しています。

また、医師の高齢化も進み、若



い医師が増えないと医療の継続が難しくなることが予想されます。

司会 大きな危機感がすぐ近くに迫っていると感じますが、看護学科もある吉備国際大学の中角さんはどのように思われますか。

中角 吉備国際大学と順正高等看護福祉専門学校に看護学科があり、1学年に合わせて約100人います。しかし、卒業するとその多くが都市部の大病院や出身地の病院に就職してしまうため、大学・専門学校としても何とか市内の病院に就職して欲しいと考えています。その対策として、市内の病院で直接地域医療に接することができるといいます。

司会 市内では看護師に加え医師の不足も予想されていますが、そのあたりはどうでしょうか。

紙谷 人口あたりの医師数は県南の医療圏に比べて約半数しかいません。特に常勤医の推移については、平成28年までの3年間で1人も増加していません。

ただ、昨年から岡山大学から

司会 アンケートによると、市民の多くが周産期医療について不安を抱えているとのことですが、市内で子どもを産みたいと考える人も多いと思います。その辺りについてはいかがでしょうか。

紙谷 高梁市での年間出生数では、医師が複数交代制で24時間365日の体制を敷くことは収益性を見ても難しく、さらに医師の中でも小児科医、産科医は不足しているため、分娩施設を作ることは難しいと思います。

仲田 全国的にも都市部に分娩センターとして集約しようとする流れです。



看護リーダー育成研修会の様子

域卒業医師の派遣が始まり、2人がそれぞれ高梁中央病院と成羽病院に派遣されています。こうした動きから、医師の不足に対しては少し明るい兆しが見えたかなと思います。

司会 医師や看護師の就職が少ない現状は分かりましたが、どうして就職してもらえないのでしょうか。

紙谷 学生ときから高度な先端医療を学びたいという気持ちがあるのだと思います。ただ、高齢化が進む中で、複数の疾患がある患者に幅広い知識と見識で接する医療こそが、先進・先端医療だと考えています。高梁の地域医療を広

市内の尾島クリニックでは妊婦検診を受けることができ、出産時の希望に添えるように病院を紹介してもらえます。また、急に産気づいた場合は「ママサポート119」という消防署と連携した県内初となるシステムもあり、安心してお産に臨むことができます。

診療看護師・在宅医療

司会 市民の皆さんに一言お願いします。

紙谷 昨年、「診療看護師」という医療行為ができる看護師が成羽病院に赴任しました。今後は、看護師のスキルアップにつながる研修を行ったり、院外の医師の補助に向いたりすることで、高梁の地域医療の発展・充実に努めたいと思います。

菅原 市民の約4割の人が自宅で最期を迎えたいと思っています。自宅で最期を迎えられた人の割合は、平成28年に市内で約10%ですが、川上地域では23%と比較的高い数字となっています。このこと

く紹介していくことで、医師・看護師の就職者が増えることを期待しています。

川井 中山間地域の病院では研修を受ける機会が少ないと考える看護師もいると思います。

高梁地域では、高梁医師会による「高梁かんのね」というシステムにより、地元で研修を受けることができる体制が整えられています。このシステムを市外へも周知することで、医療従事者の就職の流れが変わることを期待しています。

アンケートから考察

司会 昨年10月に実施した市民・市内の医療機関、医療従事者などを対象にしたアンケートによると、早朝・夜間、休日の小児の救急について、約4割の市民が市外の医療機関を受診しているという結果が出ています。このことについてはどうでしょうか。

仲田 市内の小児科医は現在4人いますが、この4人で24時間365日対応することは非常に難しいです。

人生の最終段階を自宅で過ごしたいと希望される一方で、在宅医療の仕組みが分からず人生の最終段階も自宅で過ごせることを知らない人が多いということだと思います。

今までどおり病院の主治医の先生にかけりながら、診療所などの在宅医の訪問診療も利用できることを知っていれば、スムーズに在宅医療に移行することが可能です。在宅医療の仕組みが分かれば、最期まで住み慣れたまちで過ごすことができるのです。

そのためにも、医療と介護の連携は大事であり、患者から信頼される関係づくりが必要です。

とあります。まずはそのような状況を皆さんに理解していただき、家庭でできることは何かを一緒に勉強する機会を乳児健診の時に設けています。今後も子育てについて勉強できる場面を増やしていきたいと思っています。

司会 次に、医療機関の対応として待ち時間の改善などを求める声もありますが、このことについてはどうでしょうか。

紙谷 病院側も常に頭を悩ませている問題ですが、それぞれの病院で日々工夫をした結果が、今の現状と考えています。

成羽病院では、2人の医師が増員となったことで、予約の患者だけでなく新患や急患の対応ができるようになりました。

ただ、外科や整形外科のように医師が1人で診察している外来ではそのような対応はできません。その場合は予約の患者と新患が混在するので、その人の重症度、緊急性を判断しただけお待たせしないように努めているところです。



在宅医療の様子